

ぎふ女性農業委員

だより

2011年4月1日
(第1号)

◆編集・発行 岐阜県女性農業委員協議会
会長 後藤 展子

＜事務局＞岐阜県農業会議
〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-12
TEL:058-268-2527
FAX:058-273-6177
E-mail:gifu@nca.or.jp

各府県の会長が勢揃いして
ネットワークが設立
(最前列中央…船ヶ山会長)



3月9日、「全国女性農業委員ネットワーク」が発足しました。

『全国女性農業委員ネットワーク設立総会』の開催

このネットワークは、「それぞれの地域で、女性ならではの感性と生活者としての視点を活かし、『行動する農業委員』として果敢に活動を進める」ことなどをねらいに、自主・自発的な全国組織として設立されたもので、岐阜県女性農業委員協議会をはじめ全国32府県の女性農業委員組織を会員としてします。

会長には、
宮崎県組織の船ヶ山会長（九州・沖縄代表）、
副会長には、
静岡県組織の名倉会長（東海・近畿代表）と、
宮城県組織



全参加者が意見発表した
中日本ブロックの分科会

活動推進・家族経営協定推進シンポジウム」が開催されていましたが、その中で、設立報告がされました。
なお、当シンポジウムには、本県から後藤会長（中津川市）と中野副会長（飛騨市）が参加しました。



設立報告する船ヶ山会長
左から2人目は後藤会長

『農山漁村男女共同 参画優良活動表彰』



壇上に並ぶ農山漁村男女共同
参画優良活動表彰受賞者たち
(左から2番目が平田会長)

3月10日に行われた平成22年度「農山漁村男女共同参画優良活動表彰」の「組織における女性登用部門」において、飛騨市農業委員会が農林水産大臣政務官賞を受賞しました。



飛騨市農業委員会の平田会長と中野委員

飛騨市農業委員会 農林水産大臣政務官賞受賞！

この表彰式は、東京都内の「よみうりホール」で開かれた「第24回農山漁村女性の日記 記念の集い」の一環として行われたのですが、飛騨市農業委員会の平田会長が表彰状を受け取りました。

今回の受賞は、平成16年に飛騨市に合併して以来、多数の女性農業委員が選出され、地域女性の良き相談役として活動するとともに、農業者年金



井上飛騨市長に対する
建議風景



農地の利用状況調査風景

への女性の加入推進、家族経営協定の推進、地域振興等に取り組んでいることと、女性が農業委員として立候補できるような地域づくり、活動を地域ぐるみで支援していけるような地域住民の意識改革をめざしていることが評価されたものです。

なお、飛騨市では平成22年度現在、30名の農業委員のうち6名が女性委員で全員が選挙委員です。

『女性農業委員として』

女性農業委員の皆様へ思いを語っていただきました。

●市橋 直子●

(瑞穂市農業委員会)

「農業委員としての私の思い」

8年前に農業委員のご縁を頂きました。



全国女性農業委員シンポジウムで「女性農業委員が中心となり耕作放棄地の解消と利活用」を緊張して発表しました。とや、名古屋での発表の際は講師の先生に活動の内容を褒めてもらってとてもうれしかった事などいろいろ思い出がよみがえってきました。この様な体験ができたこととてもありがたく思っています。

また、瑞穂市の農業委員さんは私達女性に対して各部の部長にしてください育ててくださいっていま

す。この気持ちに答えなければと常に思っています。今後の活動に反映できるように頑張りたく思っています。

●高田 里美●

(瑞穂市農業委員会)

「仲間と共に」

農業委員になって8年。遊休農地の解消と利活用について微力ではありますが取り組みました。

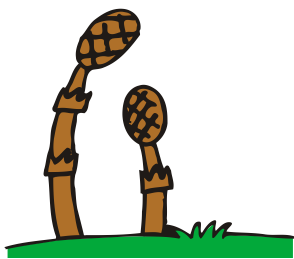
平成20年9月より、私の所属している瑞穂市柿振興会女性部で農産加工グループ「柿りん」を立ち上げて、富有柿の加工「富有柿ジャ



ム』を15人で取り組み、昨年『飛騨・美濃すぐれもの』に認定されました。富有柿は6次産業に発展し、ささやかですが、1年中収入を得ることが出来ました。又、富有柿発祥の地瑞穂市をPR、地域振興につながるように取り組んでいます。

また、仲間3人と遊休農地を利用して、学校給食に野菜を提供しています。

農業委員会では農地部会長を承り、身の引き締まる思いですが、農地パトロール、遊休農地の解消、違反転用など農地法に絡む案件を見極め、努めていきたいと思えます。



●高田 住代●

(瑞穂市農業委員会)

「初めての農業委員」

年中休みなく作業をしていても、年によって出来不出来



があり、売り上げも安定せず、将来に不安を感じながら仕事をしていました。また、家族と仕事をして

いるため家事と仕事とが混ざり、迷いがありました。そんな時、女性の農業者の方々と交流させて頂き、皆さんの頑張り仕事の楽しさを再認識させて頂きました。

農業委員になってまだ日も浅く、日々勉強不足を痛感しておりますが、家族を支え、農業も家事も子育ても頑張っていられしやる女性の皆様が、将来も安心できるお手伝いができればと考えています。

●大西 由美子●

(本巣市農業委員会)

「私の取り組み」

女性農業委員として頑張りたいことは、今の農業者年



金をもっと多くの人たちに正しく知ってもらうことです。特に若い後継者の方に老後のことをもっと真剣に考えてほしいと思っています。そして後継者の妻への政策支援がないことについて、男女共同参画の観点からも改善をしてほしいと思っています。そういう声をもっともつと上げていきたいと思っています。

それと農業の素晴らしさを食育を通して子どもたちに伝えて行けたらいいなあと思っています。福井県小浜市の取り組みのように「キッズキッチン」がどの市町にもできたら素晴らしいと思います。子を思う親の気持ちを女性ならではの観点から届けて行けたらいい

なあと思っています。

●高田 禮子●

(本巣市農業委員会)

「育てる農と食」

農業委員として『育てる農』農業後継者の育成と未



来を託す子どもたちに食と農を伝えていきたいです。

現在、農業経営の悪化が続き農業後継者の老後も不安で一杯です。将来の経営や生活の安定のため女性や若い後継者に農業者年金制度の理解と加入をすすめていきたいと思っています。

子どもたちには、食の大切さを農産物の栽培・収穫・調理・試食を体験することを通して食育をすすめていきたいです。

小浜市では、キッズキッチンの取り組みから大きな成果を上げています。これを私たち女性農業委員

員で進めていき、食物から命をいただく感謝の気持ちと、食材を生産している農への思いを持った情緒豊かな子どもたちを育てていきたいと思っています。

●國島 まき●

(輪之内町農業委員会)

「子供たちとともに」



子供たちに、花を育てることで農業に親しみ、その大切さを理解してもらおうと、3年前からヒマワリとコスモスを我家の休耕畑で育てています。面積は15アール。対象は地区の小学生、保育園児とその保護者で、水環境保全の役員さんの協力を得て、総勢40人位で種まきから始めます。耕起、畝立ては私が前もってしておき、子供たちにそれぞれヒマワリとコスモスの種を持たせ、同じ筋に蒔いてもらいました。慣れない

い彼らには大変だったようです。夏から秋と花は咲き、子供らや村人が「きれいだね」と言ってくれ、私はよかったなあと、今後ともに花を育てていきたいと思っています。また、農業者年金の勧誘にも頑張りたいと思います。

●大野 二三●

(揖斐川町農業委員会)

「農家の相談相手に」



3年前までは家族で力を合わせ、いちごと野菜を作る農家の主婦としてもづくりの楽しさの中に暮らしておりました。

平成20年7月に農業委員となり、当初は「一体何をしていくのだろうか?」「自分に何が出来るのだろうか?」と不安の中お引き受けしました。

昨年の農地法改正に伴い、事務局職員や他の委員さんと、農地の

利用状況調査を行う機会を得ました。町内の中山間地域では、先祖代々の農地を守り続けてきた農家が高齢となり耕作ができなくなり、やむなく耕作放棄地となる事例が多く見られ、そうなってしまう事のつらさがわかりました。私の住む地域では、営農組合に耕作の依頼が出来、耕作放棄地になつていない所はほとんど無く、営農組合の存在のありがたさと必要性を痛感しました。

私どもはいちご経営であります。今は息子夫婦が跡を継いでくれ「ものづくりのすばらしさ」が子に伝わった嬉しい思いと、安心と不安の混ざった複雑な思いです。これからの私が出来ること、農家の話し相手や相談相手となり、「ものづくりは手をかけたらそれだけ応えてくれ、裏切らないもの」と農業の魅力や楽しさをアピールしていくことだと思います。

●山岡 洋子●

(七宗町農業委員会)

「農業委員としての思い」



ひよんな事で農業委員をやらせて戴くことになりました。

した。農業委員は、男の人がなられる役だと思っていましたので、私に出来るかと心配しました。2ヶ月に1回委員会に参加してみると、やはり女性は私1人でした。

紅一点ならいいのですが、「ばば一点やね」と娘達は笑いました。「1年でいいよ」と云われましたが、今のところ続けています。

今まで農業は、あまり一生懸命やっていたのに、友達十数名で地元でとれた梅でジャムや梅干づけ、かぶ、大根、ラッキョウ、地産地消で作れる物を作り販売しています。1人で出来ない事も、仲間とならできます。私達の地区も担い手がなく、遊休農地が目につく様になり、残念です。

昨年から遊休農地を借りて野菜を作っています。少しでも遊休農地が増える事のないようにアイデアを出していかたいと思います。

私も自分の農地を守り続けて行きたいです。全国農業新聞が週1回届くのもとても楽しみです。

●佐伯 美智代●

(白川町農業委員会)

「自分にできることをやる」



農業委員になつて、2期目もあと少しとなつてしまいました。

我が町は前任者も2名の女性委員がおられ、私はその後任に議会議長で選ばれました。

1期目の時は2人いた女性委員も、2期目に入ると私一人だけになつていました。

「さあこれから」と思っていた

時に、一人になってしまったことが信じられませんでした。そこで、女性として考えると一人だけど、一農業委員として「自分に出来ることをやればいいんだ」と思うようにしました。今は、女性委員であるおかげで町外はもちろん、県外の女性農業委員の方達と交流する機会があったり、その気になればいろんなことを学ぶことができます。

これからも月1回の総会では、必ず発言していけるようもつと自分を高めて行けたらと思います。

●安江 永子●

(東白川村農業委員)

「農業委員としての思い」



一年の農作業が終わりかけた秋の夕方、山の紅葉と鉢植えの菊の花が色とりどりに咲き、私の目を楽しませてくれます。目



前に広がる田、少しばかりの畑と減反している田で、自家用の野菜を栽培しています。私が目標とする自給自足には充分ではありませんが、沢山収穫できた時には少しばかりの『おすそわけ』で大阪の姉に送ると「虫が付いていてもいいのよ、消毒してないのだから」と喜んでくれます。春には山菜を取り、秋には山できのこ、山の恵みに感謝し自然に生かされています。先人が遺してくれた農地を守り未来にのこす努力を続けたいとの思いです。

農業委員に推薦され、何も知らなかった私が農地パトロールなどで村全体の様子を見る時、畦畔の草刈りや田畑を守る人達の姿に教えられながら、これからも頑張つて行きます。

●安江 直子●

(東白川村農業委員)

「農業委員としての思い」

農業委員のお話をいただいた時のことは、忘れることはできません。



主人が、四期の農業委員を終了し、ホツとしていた時でしたし、農業委員は男性がやるものというイメージがありましたので、受けてからが大変でした。農業、農地のことは全て主人まかせでしたから、何もかもがゼロからのスタートです。

それでも、委員としての自覚がそうさせたのか農地に目がいくようになりました。荒れた田畑を目にすると胸が痛み、悲しくも厳しい現実を感じ、女性の目からみた農業を考えなければと思います。厳しい現実を見つめなおすときです。

●今井 美幸●

(東白川村農業委員)

「農業委員としての思い」

私の住んでいる村でも高齢化が進み「もう田んぼはできん」と言われる方も多いです。



そして、若い農家さんが引き受けるのにも限界があります。なので、私は、都会の人達がボランティアで作業できる場として提供したらどうかと思っています。気の合う仲間や家族で楽しみながらやることもできるし農業体験はよい勉強にもなる、そんなふうに農村と都会がつながっていけば良いと考えながら日々農作業をしています。そして、このきれいな農村の風景をずっと守り続けていきたいです。

息子を含め担い手を指導する手前、中途半端ではないけません。

●和田 明美●

(郡上市南農業委員会)

「一期全力投球」

真の担い手育成を推進し、政策は応急処置の失業者や定年層の担い手では後がない。農地を後世に残していけるものでなくてはいいけません。



女は女性・母として強く主張を持っています。だからこそ農業委員会では毒舌を吐き、農業の真髓を解き拓く力強さを感じているのではないかと思っています。

食を担うのは女性だからこそ、大切な存在なのだと思います。一期満了を向かえ、今私は『農の活動嫁』として邁進していくだけです。(2月28日任期満了)

●伊藤 美佐枝●

(瑞浪市農業委員会)

「次世代に伝えること」

私の住む日吉町北野は、瑞浪市北部山間地にあり、旧中山道細久手宿の近くで東海自然歩道として人々に親しまれています。私は和牛繁殖親牛20頭を夫婦で飼育して、趣味で家庭菜園をしています。



農業委員になって3年目になります。遊休農地調査も平成20年、22年と2年間やりましたが、高齢化と鳥獣被害で農業も委託すれば赤字となり、集落でも後継者は数人で、10年先を考えると食料生産を支えていけるか心許ない思いますが、今私たち世代が元気で楽しく採算も合う仕事だと若い人たちに伝えていくことが大事ではないかと思っています。

●後藤 展子●

(中津川市農業委員会)

「想い」

生命の根幹である「食」、それを担う農業。なのに耕作放棄地が増え、後継者不足が現実です。



今私は地元野菜の直売場や農家レストランの経営をしています。農業の六次産業化とか地産地消をまさに地で行っています。レストランで使用する農作物は、地元農家との契約を中心にとり、地域のものです。このことは農地の耕作放棄地化を減らし、農家の経済力を高める夢です。食の大事さを伝える食育にも力を入れ、地域の雇用にも役立っていると思います。農業者の立場で出来る、女性の感性だからこそ出来る、地域農業への支援。少しでも貢献できたいと思います。

●熊崎 美保子●

(中津川市農業委員会)

「新たな決意」

農業委員になり5年が経ちました。初めは町村合併



後の大きな地域の中で、また女性ということで大きな期待を背負ってしまったと思います。肩に力が入り、気負っていました。人との繋がりが出来、色々な経験をさせて頂き、私自身にとってはとてもプラスになりました。しかし振り返ってみて、地域の為に何が出来たかと思えば何も残っていないように思えます。私なりに目標を考えたと、まず気負いをなくし、地域の人の目の線で必要なことを見極め行動することを考えようと思います。特別な行動ではなく自分の仕事に密に結びつけることで自然に地域にとけ込み役に立てるような、人と繋がれる農業委員でありたいと思います。

●西尾 ひろみ●

(恵那市農業委員会)

「農業委員としての思い」

我が家は酪農を経営しています。農業委員の



話を頂いたときは戸惑いましたが、農業委員になり、農地法、農業に関する制度等、知らないことが多いのに改めて気づきました。また、地域の農業のあり方や問題を考えることも多くなりました。農業者年金の話を研修会で聞き、有利な制度と思い加入しました。昨年は、家族経営協定を結び、認定農業者の共同申請をし認定を受けました。自分が経験したことを伝えることで、地域の女性農業者へ刺激になり活性化につながってほしいと思います。

●山内 絹代●

(恵那市農業委員会)

「農業委員となつて」

議会推薦で
お話があり、
農業委員の一
員にならせて



頂き2期目を迎えました。農業も生産方面には少し自信があります。農地の法律となるとほとんどわからない状態でしたので、慌てました。

「何も知らなければ、これから勉強すればいい。わからない事は聞けばいい。もう遅いということはない」と励まされ、挑戦しました。現地確認で農地をみて回った時思った事で、耕作するにはとても便利な田畑が休耕地、不便な所でも一生懸命耕作している田畑、本当に対称的なところを何度目目の当たりにして、すごく気になつたりしてしまいました。農業委員になつたから何ができるといふことは言えませんが、今の自分に一

つでも身につく何かがあればよいのではないかと思っています。お世話になります。

●鈴木 佳代子●

(恵那市農業委員会)

「土と向き合う毎日」

笠置山と
坂折棚田の
ある恵那市北
部の中野方
町に住んでいます。地域全体が家族のような集落です。



中野方町の入り口に町内の有志で運営する「なかのほう不動滝やさいの会」のお店があります。地元でとれた野菜を中心に料理して食事を提供する食堂「味菜」部、漬物や朴葉もち等の郷土食を作る加工部、そしてそれらと新鮮農産物を販売する直売部があります。私は直売部担当で、お客様と野菜のこと、料理のこと等の会話を楽しみにしています。今年は天候

に左右され大変でした。

でも山の木、田畑に囲まれ土と向き合い毎日を過ごせることは幸せと感じます。

頼りない委員ですが、任期を無事務めたいと思います。よろしくお願ひします。

●本田 たづ子●

(高山市農業委員会)

「統一選挙に思う」

農業委員会活動に、ご理解、暖かい応援を
して下さりあ
りがたく思っています。まず足で
地域を知り、失われた農地を確認
し、取り戻すことはとても難しく、
今ある農地を荒廃しないよう守る
ことが大切と思います。



今どこでも鳥獣害の被害が多く、生産意欲を失う方が多く、農業者にとって生き甲斐、楽しみを奪われることはとても残酷なことです。

対策に地域を上げ取り組むことに補助をお願いします。

女性農業委員の登用の件ですが、今農業委員統一選挙で、一農業委員会あたり複数の女性とあります。女性農業委員も仲間と支え合い、意識を変え、勇気を持って、格別のご理解と応援をお願いしたいと思います。

●中谷 ちづえ●

(高山市農業委員会)

「農業委員としての思う」

農業委員に推薦されてもう
2年半が過ぎ
ました。農地
制度や委員会の役割等いろいろな
研修会で話を聞きましたが、どれも
難しく感じられ、また家族経営
協定や農業者年金の推進をやつて
も思うように話が進まず、自分の
認識不足を歯痒く思っています。
それでも部会で食農にも取り組ん



でも部会で食農にも取り組ん

2011年4月1日 (第1号)

でいるので、各団体と連携しあい、少しでも子どもたちに食農について関心を持たせるよう働きかけていくつもりです。

高山市農業委員36名中2人の女性委員ですが、周りの人たちから助言してもらい、委員としての自覚を持ってこれからも努めていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●中野 多千子●

(飛騨市農業委員会)

「三期目は夢に向かって」



平成の大合併から早3期目。何もわかっていないまま、背伸びしながら先輩委員さんについていくのが精一杯だった1期目。荒廃する農地を横目で見ながらもひとりではどうすることも出来なく、もどかしい思いもしました。主人の助けを受けながら、少しだ

け耕作地を広めて「雑穀作り」を始めたものの、鳥獣害との戦いだっただけで2期目。その間には県内の女性委員さんとの交流もあって、肩肘張らずに過ごせた3年間でした。今、3期目に入って今まで出会えた人々の影響で、いろんなことに挑戦したくなりました。長いけれど、あつという間に過ぎた3年だったと思えるように、夢に向かって頑張ります。応援よろしくお願いします。

●築山 昔子●

(飛騨市農業委員会)

「今を喜んで」



農業に就いて約10年、ほうれん草と菌床しいたけの出荷に日々励んでいます。例年のない猛暑の中、健康で過ごすことができたことに感謝しています。我が家のサクランボが、今年は

沢山の実をつけました。紅色に輝く鈴なりの姿は壮観でした。パートさんや近所の方、また通学帰りの子供たちにサクランボ狩りを楽しんでもらいました。ブルーベリーやスモモなども休憩時のおやつです。自家栽培の野菜や果物は、私の元気の源です。

●酒井 百合子●

(飛騨市農業委員会)

「仲間と発展させたいこと」



まず「農地」、難しいしわからないので、その都度聞いて活動しています。2点目として、地域の人のつながりを大切に、その取り組みの1つとして高齢者の方に「エゴマピット苗」を作ってもらっています。この苗を、若手の人たちに「今年からよう作らんようになった」と言われた田に植え、育てます。収

穫したエゴマでおはぎを作り、「遊休農地未然防止おはぎ」の表紙をパックの上に乗せて、おはぎパーティーのあとに配ります。今回で3回目になります。3点目に、「フードマイレージ」もっとも小さい無人販売を5年前に8人で開店しました。安心安全の野菜を直売しています。屋台の店です。

4点目に中山間集落協定の仲間、ヒマワリのお盆に咲かせ、8年間毎年楽しみに太江の地へ帰郷される方、朝夕通勤の方を和ませています。5点目には、今年の秋に段ボールコンポストを始めました。台所の残飯で堆肥を作り、春、チビツ子農園へ投入する予定です。野菜を作りながら親と子の話し合いができることで、よりおいしく頂き、おいしいが嬉しいになり、生産に結びつくことを願います。

以上5つのことを仲間と発展させていきたいと思えます。

●田中 恵子●

(飛騨市農業委員会)

「女性農業委員として」

女性農業委員が誕生してから今年で4期目、初代の



4人が何かやろうと転作でたくさん大豆を作っているの、地産地消を利用して味噌を作ることになりました。

農業まつり等、豚汁には必ずこの味噌を使って出します。みんなには「昔ながらの味がするね」と評判はなかなかでした。それ以来、毎年たくさん味噌を作ります。いろいろなところで研修してきましたが、残念ながら古川には販売するものが一つないのです。農家のお母さんたちが作っているものが、何とか販売に向けてみんなで力を合わせて一歩でも前向きに進んでいけたらと思っています。

●奥田 眞智子●

(飛騨市農業委員会)

「農業委員になって」

私が農業委員になってまず思った事は、研修会、交流会等



を通じてたくさんの人に出会う機会が増えたということです。

皆さん本当に元気があってステキな方々ばかりです。そんなステキな方々から学ぶことはもうたくさんあり、いかに自分が今まで何も知らずに、何もしないで過ごしてきたかと思ひ知らされるばかりです。

これからももっとたくさんの人と出合える機会があると思います。その時はいろいろ教えて頂き、地元の間の人に伝えていけたらと思っています。女性だからできるかもしれないということが、きっとあると思っています。

●田中 純子●

(飛騨市農業委員会)

「農業委員1年生」

農業委員1年生の私が、初めて農業委員会総会、研修会に出席した時は、驚きと緊張



で胃が痛くなるほどでした。研修会がある度に、難しい用語を聞く度に、理解するのに手間取っています。現地確認、農地パトロール、農地利用状況調査など、先輩の皆さんに教わりながら、私は新人1年生なのだから、今からが勉強なのだと思ひながらいます。

今は農業委員会の仕事を理解することで精一杯です。よろしくお願ひします。



●石原 真紀子●

(下呂市農業委員会)

「私と農業」

私が農業と関わったきっかけは、結婚



でした。酪農家に嫁ぎ、子どもを二人出産してから保母を退職。自分の子どもを自分で面倒みたいと思ひからです。

しかし酪農家の妻は、子どものそばに一緒にいていられなくて牛の世話中心の生活、育児は家族皆でが農家の長所だったと信じています。

現在は高齢の両親の介護をしながら、野菜作りの仕事も酪農に加わり、超多忙な毎日です。介護は老夫婦への恩返しだと自分に言いかけながら、女性農業委員としてはあまり研修に出席出来ないのですが、我が町では一番農業に携わっていると自負をしています。

●中川 恭子●

(下呂市農業委員会)

「若い世代に向けて」



このたび農業委員を務めさせていたただくにあたり、女性委員として何が出来るか思いめぐらしております。農業者の高齢化や若者の農業離れ等で増え続ける遊休農地を目の当たりにし、自給率の低い日本の将来に不安を隠せません。

若い世代が将来に向けて農業の大切さや自給率などにもっと真剣に関心を持たなければと思います。幸い若い母親を対象に食農教育活動を展開中です。その場で農業、農地の大切さにより深く関心を持って子育てして欲しいと訴えていきたいと思っています。

●上手 ひろ子●

(白川村農業委員会)

「農村で暮らす者として」



私は、野菜を育てて直売所で販売させてもらっています。

手がけた頃は、少しぐらい虫に食われてもいいからと思いきや無農薬で野菜を作っていました。葉ものには、大丈夫なものもありますが、キャベツ・白菜類は虫がつきやすく虫とりに大変な思いをしました。酢・唐辛子・みかんの皮で工夫している時にEM研修に参加しました。家庭の生ゴミを利用した土作り、化学肥料をおさえ減農薬で育てるものです。今でも失敗することはありますが、味の良い野菜が出来るので楽しくやっています。直売所で販売したり、食事に利用してお客さんに喜んでもらっています。学校給食に出る生ゴミ、豆腐屋さんのおからを野菜作りに役

立てています。

自分で行うことで手一杯ですが、続けていきたいと思えます。

＜編集後記＞

このたよりの編集集中に東日本大震災が発生しました。お亡くなりになりました方々に衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。復興に向け大変な道のりかと思えますが、国民全体で応援していきますので、希望をお持ちいただきますことを心より祈念させていただきます。

さて、全国32府県で1,779名(H22年9月)の女性農業委員が活躍されていますが、このたび全国組織が設立され、今後ますます女性の役割と活躍が期待されることとなります。

これを機に、女性農業委員の活動をご理解いただくため「ぎふ女性農業委員だより」を発行(随時)することといたしました。事務局といたしましてもタイムリーな発行をめざして努力していきますので、よろしくごお願い申し上げます。

最後になりますが、女性の農村社会作りに積極的に参画することが求められるなか、7月の農業委員統一選挙におきましては、全ての農業委員会で女性農業委員が選出されますよう期待しております。

(H)